

自分の氏名をどのように表記するかは当人次第だが、標目として著者名索引などに記載する場合には、なんらかの手直しが必要となる。

学術論文における著者名表記の基準を示そう。

SIST 08-2010 学術論文の執筆と構成：

- 5.2 (a) 著者名は、その記述を常に統一し、姓・名を略さずに記載する。
- (b) 著者名の欧文表記には各著者慣用の著者名を用い、姓と名が区別できるように記載する。
- (c) 論文本文の言語以外に、欧文表記の著者名を付記する。
- (d) 日本人が書いた外国語論文の場合は、可能な限り日本語による著者名を記載する。ただし、記載箇所は同一の論文中でなくともよい。
- (e) 著者が団体の場合は、まず、その正式名称を省略せずに記載し、その後、所在地を示す。名称の省略形を括弧に入れて付記してもよい。

国立国会図書館 (NDL) は、「日本目録規則, 1987 年版, 改訂 3 版」(2006) に準拠する「個人名標目の選択・形式基準」(2012-01 改正) を定めている [<http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/>]。個人名標目は著者名索引の作成、著者名による検索などに利用される。今ではその作業の多くはコンピュータを用いて行われる。

日本人の場合：漢字に付記された読み (かな文字またはラテン文字) を用いて配列するのが原則だが、漢字表記だけの場合は、読み違いの恐れがある。例えば、姓の「角田」には「つのだ」、「かくた」、「すみだ」という 3 通りの読みがあり、読みで配列すれば別れ別れとなる。現在の機械検索では漢字も使用できるから、読みに不安があれば、「角田」で検索する。ノイズを消したければ、検索語を複数 (「角田 and つのだ」とすればよい。

ラテン文字表記については、SIST 08 に下記の解説がある：本基準では姓と名が区別できるように記載すると規定しているが、具体的には姓の文字のすべてと、名の頭文字 (大文字) とを表記することが望ましい。

日本人の姓名のラテン文字表記に関しては、国語審議会答申がある (「国際社会に対応する日本語の在り方」, III.2 「姓名のローマ字表記の問題」(2000-12-08) (http://www.bunka.go.jp/kokugo_joho/kakugo/22/))。

ここでは、「姓-名」の順とすることが望ましいとし、記載例として 3 例 (Yamada Haruo, YAMADA Haruo, Yamada, Haruo) を挙げている。最初の例には姓と名とを取り違えるという危険性がある。引用文献の表記では、第一著者のみを姓-名、第二著者以降を名-姓とする慣習があることにも気をつけたい。

韓国人・朝鮮人の場合：

金 → 김 (グム), (人名では) 김 (キム)
→ (名刺の上では) Kim, Gim など
李 → 리 (リ), (人名では) 이(イ), 리 (リ)
→ (名刺の上では) Lee, Ri など
朴 → 박 (パク), (人名では) 박(パク)
→ (名刺の上では) Park, Pak など

中国人の場合：

张(張)→(拼音) Zhang (チャン)
李 → (拼音) Li (リ)
刘(劉)→(拼音) Liu (リュウ)
姓名の拼音表記にはいくつかの方式がある。
周恩来→ZHOU, En-Lai (1)
→Zhou, En-Lai (2)
→Zhou, Enlai (3)

(1)は中国で刊行されている学術雑誌でよく見かけるが姓のすべてを大文字で表記する習慣がないところでは(2)となる。(3)はNDLの目録規則で採用されている。いずれにしても、「,」を省略すると姓と名とを取り違える恐れがある。

欧米人の場合：

問題になるのは姓に前置詞または冠詞をとともなう場合で、3種類の個人名標目が生まれる。

Jean de la Fontaine

→De la Fontaine, Jean
→Fontaine, Jean de la
→La Fontaine, Jean de (NDL, LCで採用)
NDLの基準(「個人名標目の選択・形式基準」, 2012-01 改正)では、言語によって使いわける。

英語：De Morgan, Mary

フランス語：La Fontaine, Jean de
Le Bon, Gustave

ドイツ語：Goethe, Johann Wolfgang von

スペイン語：Colina, José de la

イタリア語：Del Piero, Alessandro

ポルトガル語：Santos, Vitor Pavão dos

表記の混乱を避けるための方法として、Open Researcher and Contributor ID (ORCID) (研究者を対象とする認証番号 (ID) 制度) を導入することが検討されている。

参考資料：蔵川 圭, 武田英明. 研究者識別子 ORCID の取り組み. 情報管理. 2012, vol.54, no.10, p.622-631.
(太田泰弘)